

## 報告書

テーマ： 2009 年度 在宅医療助成 指定公募(後期)  
市民講座開催への支援及びアンケート調査

栃木県在宅緩和ケア公開講座 「地域社会でのがん患者支援」

申請者名： 粕田 晴之

所属機関： 栃木県立がんセンター

職 名： 緩和医療部長

所属機関所在地： 〒320-0834 栃木県宇都宮市陽南4-9-13

提出年月日： 2010年10月10日

日程： 2010年8月8日(日) 10時30分～15時30分

会場： とちぎ健康の森 講堂(定員 400 名)宇都宮市駒生町3337-1

対象： 栃木県民(一般市民、医療従事者ほか)

主催： 在宅緩和ケアとちぎ 栃木県立がんセンター 栃木県保健福祉部

後援： 栃木県医師会 栃木県歯科医師会 栃木県看護協会 栃木県薬剤師会  
栃木県病院薬剤師会

助成： 財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団

プログラム：

10:30 開会の挨拶 栃木県保健福祉部 健康増進課長 加藤和英さん

第一部 (10:35～11:50) 基調講演： 地域社会でのがん患者支援

1. がん体験者からのお話 「がんとともに生きる仲間たち」 たんぽぽの会 加藤玲子さん
2. ご家族からのお話 「身近なひとを亡くした家族の思い」 こすもすの会 斎藤睦子さん
3. 地域社会でのがん患者支援 「心のセルフケア・ピアサポート活動～」

Self Help Group 「NPO法人ぴあサポートわかば会」 寺田佐代子さん

コメンテーター： がん体験医師・足利赤十字病院緩和ケア内科 田村洋一郎さん

司会： 栃木県立がんセンター 緩和医療部 粕田晴之さん

第二部 (12:00～13:00) がん患者支援コンサート

(1) ピアノ： 石井英子さん ヴァイオリン： 石井紀子さん

(2) 二胡： 稲田美和子さん ピアノ： 中里純子さん

第三部 (13:00～15:30) シンポジウム

「緩和ケアと地域連携 ～ガンになっても住み慣れた地域でより良い時間が過ごせるように～」

司会 ひばりクリニック(在宅療養支援診療所) 高橋昭彦さん

老人保健施設かみつが 須田啓一さん

講演(60分) 1. 「介護のこころ」

地域包括支援センター清原 金沢林子さん

2. 「在宅医・訪問看護師・ケアマネージャの連携」

さくら訪問看護ステーション 鳥居香織さん

3. 「在宅緩和ケアにおける緩和ケア病棟の役割」

栃木県立がんセンター 緩和ケア病棟 三宅智さん

4. 「緩和医療・ケアは場所を選ばない」

医療法人アスムス・在宅ケアネットワーク栃木 太田秀樹さん

討論(90分)

15:30 閉会の挨拶 栃木県立がんセンター病院長 清水秀昭さん

報告:

1. スタッフの構成: 出演者 17 名、スタッフ 19 名、ボランティア 19 名、総勢55名による  
手作りの市民公開講座でした。
2. 参加者数: 事前申し込み283名、当日受付数 230名(一般58、医療・介護172)  
猛暑の中、230名の参加を頂きましたが、一般参加者58名と予想を下回り  
ました。一般向けのPRが不十分であったことは反省点です。
3. アンケートから: こちらで準備したアンケートの記入にご協力いただいたのは137名  
出席者の概要: 医療従事者110名、一般27名、比較的若い方の参加が目立ち、  
職種では、看護師・介護支援専門員の方が多数参加されていました。  
参加動機: 「緩和ケアに関心がある」がもっとも多くを占めました。  
講座内容に対する評価: 第1部～3部共に「大変良い」「よい」が9割となっていました。

#### 4. 感想(その1)申請者の感想

##### (1)「緩和ケア」に関する初めての市民公開講座

「緩和ケアを希望する人が、病院・ホスピス・施設・自宅など、どこで暮らしていても、どこに移っても、切れ目なく必要なケアが受けられる」ように、ということを目指し、私たちは活動してきました。

その「緩和ケア」に関する市民公開講座は初めての開催であり、「緩和ケア」とりわけ「在宅緩和ケア」に対する栃木県民・宇都宮市民の反応はどんなものか興味深いものがありました。

講演会とシンポジウムでは、患者・家族側(がん体験者・ご遺族・自助グループ・セルフケアピアサポートの実践者)と、医療・介護者側、双方からのお話、ご意見、両者一体となった討議が行われました。

##### (2)市民と医療従事者が一体となって「緩和ケア」を推進

一般参加者は76名と予想を下回りましたが、参加された市民の反応は予想以上に大きく、会場からの質問や意見がこれほど多いシンポジウムは初めてでした。

まさに、市民と医療従事者が一体となった時間を共有し、一体となって「緩和ケア」を推進して行ける、その第一歩となったことを確信することができました。

今後、一般向けPRの充実を図り、より多くの一般市民に参加して頂ける市民公開講座を。引き続き開催して行きたいと考えています。

##### (3)助成金の額

市民講座の開催に30万円という額は苦しく、40万円が適当額であることを実感しました。

#### 5. 感想(その2)

##### (1)総合司会者の感想

第一部 基調講演:「地域社会でのがん患者支援」では、「たんぼぼの会」がん体験者からのお話、「こすもすの会」ご遺族からの身近な死を受け入れるまでの過程の気持ちの変化など、体験した方から直接うかがうお言葉には胸に迫るものがありました。そして、自助グループの存

在がどんなに大切かも実感しました。

セルフケアのピアサポートを实践されている寺田さんからは、自らの生きる意欲を取り戻すためには、自分が何かに気づき・考え・計画し・行動するプロセスが必要であること、変わる力はその人の”内”にあるのだと学びました。オーストラリアで学んでこられたことをいかし、アクティブに活動されているお姿にとっても刺激を受けました。

第二部 「がん患者支援コンサート」では、ピアノ・ヴァイオリン・二胡のすばらしい演奏に心打たれました。音楽のもたらす癒し・・・なんともいえない心地よさに包まれました。画面に映し出された「最後だとわかっていたら」の詩や映像とともに、やさしい気持ちになりました。

第三部 シンポジウム：「緩和ケアと地域連携 ～ガンになっても住み慣れた地域でより良い時間が過ごせるように～」では、それぞれの立場から緩和ケアと地域連携についてお話をうかがいました。

ディスカッションでは、会場から驚くほどたくさんのご意見・ご質問があり、活発な討議がなされました。

”一人ひとりがどう生きていきたいか語る場を作っていく必要がある。”

”患者さん自身が、自分がどうしたいのか考え言えることが大切なのではないか。”

”誰がいつ在宅にしたほうがいいと判断して 伝えるか？”

”退院して在宅に帰り、すぐに看取りとなったとき、何の説明も聞いていなく死を予測していなかった家族はその状況を受け入れる事ができない。もっと余裕を持って在宅に”

”患者、家族はスタッフの何気ない一言に傷つきもし、癒されもすることを、どうか忘れないでいてほしい。”

”家族は、どんな看取り方をしても ある意味で後悔する(ああすればよかったかもしれない・・・など)”

”後悔が希望にかわるケアをしていきたい。”

すべてはお伝えできませんが、このような研修をきっかけに多くの方とともに考えていけたらいいと感じました。生活の視点から見たソーシャルワーカー、ケアマネジャー、ヘルパーさんなどの現場の声も反映させていけたらいいな・・・と思いました。

猛暑のなか、準備して下さった皆様、裏方で支えて下さったたくさんの方々、遠く京都、名古屋、東京方面からかけつけて素晴らしいご意見を下さった皆さま、本当にありがとうございました。

## (2) シンポジウム司会者の感想

暑い中、公開講座にご参加いただいた皆様、誠にありがとうございました。

前半後半を通じて、会場は、壇上も、着席されている皆さまも、そして裏方で頑張っておられる皆さまもひとつになり、あたたかな気持ちで終了することができました。

シンポジウムでは、シンポジストの皆さまと会場の皆さまから多くの示唆をいただきました。会場からの挙手が途切れることがなく、司会者としてはとてもありがたく思いました。いくつかの切実な声も拝聴しました。前向きに関わる皆様のちからも感じました。

また、遠方からいらして下さった方々、本当にありがとうございました。皆さまのお蔭で議論がさらに深まりました。

スタッフリーダーはじめ、運営にご尽力いただいた皆さまにこころよりお礼申し上げます。ありがとうございました。

### (3) 京都大学附属病院から駆けつけて下さった宇都宮宏子さんの感想

皆さん、昨日はご苦労様でした。この研修は、いつも力を頂きます。

病院、特に大学病院にいと、患者さんの声・医師の前で見せる姿とは違う、患者さんの想いを、ついつい見失いそうになります。家族のせつな思い・患者さんの強く変化していく力・老いや病気への不安を抱える世代・子供を亡くしたお父さんの前を向こうとしている姿・そして病院で多くの子供たちがなくなって行く姿を見ていた方の思い・・・本当に、本当に感謝です。『忘れるなよ、患者の想いを！』と耳元で、亡くなった方達の声が聞こえたような一日でした。

仙台の川島先生が、ずいぶん前の医学雑誌で「急性期の医療は上流に『生命維持』があり、下流に『生活の場に帰す』があったが、医療の進歩により、命は助かったが、生活の場に帰せない状況になっている、我々利用者は、生命維持と同じくらい『生活の場に帰す』事を重要な目的と意識して医療提供するべきだ。」とされています。

だからこそ、入院した時から、外来通院中から、「病気を持ってどう生きるか」を患者さんと一緒に考えて行く看護の役割が大きいと思います。ヨーロッパや、オーストラリアのように地域看護・家庭医の役割がある国と、なぜか弱くなってしまった日本との大きな差・・・地域で健康や病気・老いを抱えて生きる生活者を支える仕組みがない日本で、医療機関が果たせる事・仕組みを考えて行きます。

今の日本の医療を変える事ができるのは、『在宅からの声』だと思っています。在宅の力と、病院が一緒になって中を変えていく、そして患者も家族も自らの力も信じて、変化していくことが大事なのかなと、研修会で再確認しました。

## ★公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成による

# 栃木県在宅緩和ケア公開講座 「地域社会でのがん患者支援」

日時 2010年 8月 8日 (日) 10時30分～15時30分  
会場 とちぎ健康の森 講堂 (定員400名)  
宇都宮市駒生町3337-1  
対象 栃木県民 (一般市民、医療従事者ほか)

主催 在宅緩和ケアとちぎ・栃木県立がんセンター・栃木県健康増進課  
後援 栃木県医師会・栃木県看護協会 栃木県薬剤師会 栃木県病院薬剤師会  
助成 財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団

## プログラム

(10:30～) 開会挨拶 栃木県保健福祉部健康増進課 課長 加藤和英さん

### 第一部 (10:35～) 基調講演「地域社会でのがん患者支援」

1. 体験者からのお話 「がんとともに生きる仲間たち」  
たんぼぼの会 加藤玲子さん
2. ご家族からのお話 「身近なひとを亡くした家族の思い」  
こすもすの会 斎藤睦子さん
3. 地域社会でのがん患者支援 「心のセルフケア・ピアサポート活動～」  
Self Help Group 「NPO法人ぴあサポートわかば会」 寺田佐代子さん

コメンテーター がん体験医師・足利赤十字病院緩和ケア内科 田村洋一郎さん  
司会 栃木県立がんセンター 緩和医療部 粕田晴之さん

### 第二部 (12:00～) がん患者支援コンサート

- (1) ピアノ：石井英子さん ヴァイオリン：石井紀子さん
- (2) 二胡：稲田美和子さん ピアノ：中里純子さん



### 第三部 (13:00～)

#### シンポジウム「緩和ケアと地域連携」

～ガンになっても住み慣れた地域でより良い時間が過ごせるように～

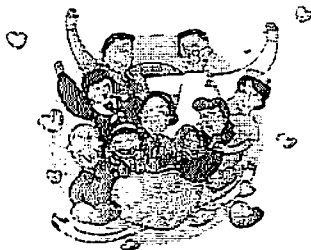
司会 ひばりクリニック (在宅療養支援診療所) 高橋昭彦さん  
老人保健施設かみつが 須田啓一さん

#### シンポジスト

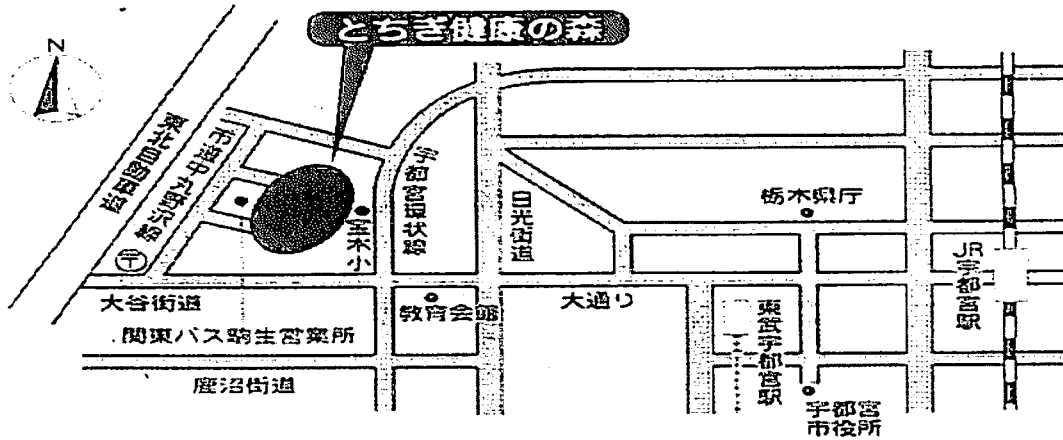
1. 「介護のこころ」  
地域包括支援センター酒原 金沢林子さん
2. 「在宅医・訪問看護師・ケアマネージャの連携」  
さくら訪問看護ステーション 鳥居香織さん
3. 「在宅緩和ケアにおける緩和ケア病棟の役割」  
栃木県立がんセンター緩和ケア病棟 三宅 智さん
4. 「緩和医療・ケアは場所を選ばない」  
医療法人アスムス・在宅ケアネットワーク栃木 太田秀樹さん

討 論 (80～90分)

(15:30～) 閉会の挨拶 栃木県立がんセンター病院長 清水秀昭さん



# ● 会場のご案内



## 交通機関

- JR宇都宮駅から関東バス駒生営業所行(約25分)、「とちぎ健康の森」「とちぎリハビリテーションセンター」又は終点下車
  - 東武宇都宮駅から関東バス駒生営業所行(約30分)、「とちぎ健康の森」「とちぎリハビリテーションセンター」又は終点下車
- ※駒生営業所行のバスは"10"番と表示されています。  
 ※バスは土・日・祝日は敷地内に乗り入れておりませんので、関東バス駒生営業所をご利用ください。

## 申込書

● 必要事項を御記入いただき、FAXでお申込ください。 **FAX番号 028-658-5297**

定員 400名 (定員になり次第締め切らせていただきます)

申込み先 栃木県立がんセンター 相談研修課(がん情報・相談支援センター)

申込期限 平成22年7月23日(金)

|      |   |
|------|---|
| 氏名   |   |
| 住所   | * 専門職の方は勤務先の名称と住所をご記入ください   |
| 電話番号 |   |
| 属性   | * 該当する箇所に○をつけてください<br>一般<br>専門職 ( 医師・歯科医師・薬剤師・看護師<br>ソーシャルワーカー( )・介護支援専門員<br>介護福祉士・その他( ) ) |

● 受講をお断りする場合のみ、ご連絡をさせていただきます。

★ 会場で昼食を摂ることができます。

お弁当を持参すると会場で昼の「がん患者支援にコンサート」が楽しめます。